

サッカー 被災の子も笑顔

国際医療NGO「AMDA(アムダ)」(本部・岡山市)の企画で、1月に大地震が発生したハイチの子どもたちを励ますため、隣国ドミニカ共和国で行われたサッカーの親善試合に参加した新庄村立新庄中3年新家夢純さん(15)、同1年百合絵さん(13)姉妹とアムダのメンバーが25日、帰国した。

新家さん姉妹は16日に大阪府や広島県の中高生計16人と日本をたち、ドミニカで3国による親善試合を2日間行ったほか、各国の歌を披露する文化交流や青年海外協力隊の活動見学などをした。

親善試合では、アムダの活動を支援する高校生のグループ



帰国した新家夢純さん(右)と百合絵さん(JR岡山駅で)

ドミニカ派遣 ハイチと交流の姉妹帰国



ハイチチームと日本チームの親善試合(アムダ提供)

プが「勇気」「希望」「友達」などと寄せ書きしたボールを使用。ハイチチームは、5月にアムダが寄贈した靴を履いて臨んだ。国ごとの対戦や、3国混合チームと付き添いの大人で作ったチームとの試合があり、混合チームでは、子どもたちが言葉の代わりに身ぶり手ぶりで意思を通わせ合いながらプレーした。

JR岡山駅に着いた新家さん姉妹は「ハイチのメンバーの中には、地震で家族や家を失った子もいたが、サッカーをしている間は一緒に笑えた。これからも文通などで交流を続け、いつかは新庄村に招待したい」と話していた。